乳児におけるモノの動きと同期したラベリングの理解

○大竹裕香¹・針生悦子¹

(¹ 東京大学大学院教育学研究科)

キーワード：言語獲得，ラベリング，同期

Infants' interpretation of a novel label presented in synchrony with object's movement.

Yuka OHTAKE¹, Etsuko HARYU¹

(¹ Graduate School of Education, University of Tokyo)

Key Words: language acquisition, labeling, temporal synchrony

目的

養育者は、まだことばのあまり話せない子どもに話しかける時、話し方を変える(motherese)、身振りを強調する(motionese)などの様々な工夫を行う。その中でも、養育者が子どもに新奇なことばを教える際、ことばとモノの動きを同期させるということが言われている(Gogate, Bahrick & Watson, 2000)。そして、ことばとモノの動きが同期している時には、7-8 カ月児でも、新奇なことばとモノを対応づけることができることが示されている(Gogate, 2010)。

しかし、ことばとモノの動きの同期は、乳児の注意を補足し、ことばの対応付けを促進するという側面がある一方で、ことばの指示対象をより曖昧にしまう可能性がある。具体的には、ことばとモノの動きが同期する時、ことばの指示対象としては、「モノ」だけでなく、「動き」や、「モノと動きのそのような組み合わせ」も強調されてしまう。乳児は、モノの動きと同期させて呈示されたそのラベルが、そのイベントのどの側面—モノか、動きか、そのモノがそのような動きをすることか—を指すと考えているのであろうか。このことについて本研究では、16 ヶ月児・20 ヶ月児を対象に、Oshima-Takane et al(2011)を参考に、switching-paradigm を用いて検討した。

方法

対象 16 ヶ月児 24 名(男児 12 名, 女児 12 名), 20 カ月児 14 名(男児 7 名, 女児 7 名)

刺激 馴化刺激として、2 種類のイベント(モノ A が動き A をして「きーん」ということばが同期/モノ B が動き B をして「もーん」ということばが同期)を作成した。いずれのイベントでも、モノは画面の左右を 2 往復した後(9 秒間)、静止した(最大 21 秒間)。テスト刺激として、馴化試行の 2 種類のことばそれぞれに対して、①モノも動きも同じ(Same 刺激)、②モノのみ変化(agent-change 刺激)、③動きのみ変化(action-change 刺激)、④モノと動きの両方が変化(control 刺激)の 4 つを作成した。

手続き 馴化試行では、2 種類の馴化刺激が交互に呈示された。刺激の呈示は infant-controlled で、乳児が 1.5 秒以上視線をそらすと、その試行は終了した。連続する 2 試行の平均注視時間が、注視時間の最も長かった 2 試行の 65% 以下に減少すると、テスト試行に移行した。テスト試行では、馴化試行で学習したいずれか一つのことばについて、4 つのテスト刺激を、順序をカウンターバランスして呈示した。なお、馴化試行の前と、テスト試行の後に、同じ映

像刺激を呈示し、乳児が疲労していないことを確かめた。

結果と考察

それぞれの月齢における、テスト試行ごとの注視時間の平均と標準偏差を、Figure に示した。月齢ごとに、テスト試行(4)を独立変数とした、被験者内 1 要因分散分析を行った。その結果、16 ヶ月児においては、テスト試行の主効果は有意傾向であったが($F(3,69)=2.68, p=.053$)、下位検定の結果、どの比較対も有意な差は見られなかった。一方、20 ヶ月児においては、テストの種類的主効果が有意傾向であり($F(3,39)=2.29, p=.093$)、下位検定の結果、same 試行と agent-change 試行の間($p=.091$)、same 試行と control 試行の間($p=.097$)の差が有意傾向であった。つまり、モノの動きと同期したことばについて、16 ヶ月児は、テスト試行のいずれかの違いには気づくものの、どれかに一貫して対応づけるといった傾向が見られないのに対し、20 ヶ月児は、動きから切り離れた“モノ”にことばを対応づける傾向が見られた。20 ヶ月児は、文法的手がかりを元に、名詞をモノに、動詞を動きに対応づけられる月齢であることも考慮すると(Oshima-Takane et al, 2011)、16 ヶ月から 20 ヶ月の間に、文法的・社会的手がかりがない時にも、指示対象を明確化しようとするようになることが示唆される。

Figure. テスト試行における平均注視時間(単位は秒)